

INTERNATIONAL EXCHANGE 国際交流



水産学部の留学プログラム

水産学部には様々な短期留学サマーコース、交換留学制度があります。これらプログラムは語学留学を目的とするものではなく、研究目的の留学プログラムです。海外での研究体験のみならず、それを足掛かりに海外の大学院に進学する学生もいます。水産学部のプログラム以外にも、自ら奨学金を得て、国際交流協定校に留学する学生もいます。全ては紹介できませんが、短期留学スペシャルプログラム、交換留学、トビタテJAPAN(文部科学省)を利用しての留学体験を紹介します。また、水産学部は約7か国から50人程度の留学生を受け入れています。交換留学で来る学生もいれば、入試を経て入学する留学生もいます。交換留学は期間が限られていますが、その後、水産科学院の大学院に進学する留学生も多くいます。

ラーニングサテライト

東南アジアにおける持続的内水面漁業・養殖業 管理リーダー研修 (カンボジア王国国立農科大学)

世界の海面漁業の生産量が頭打ちになる中、内水面(湖沼河川)漁業は成長を続けており、特に発展途上国において食糧と働く場所の確保に大きな役割を果たしています。このプログラムでは、カンボジア最大の農科大学である王立農科大学とカンボジア政府水産局の協力のもと、現地学生とともに研究施設、水産物市場、内水面漁業の漁場や養殖場など多岐にわたる場に接し、このようなプログラムに参加しなければ得ることができない、「触れる・話す・協働する」といった、かけがえのない体験をします。これを通じ、内水面漁業・養殖業の現実と複雑性、SDGsへの課題を自ら考え、水産グローバルリーダーに必要な課題解決能力を身につけます。



カンボジア王立農科大学でのグループワーク(2019年7月)



函館市水産物地方卸売市場の見学

Seafood supply chains in Japan and Singapore — NUS

北海道大学—シンガポール国立大学 サマーコース ～日本とシンガポールにおける水産物供給体制の比較～

本プログラムは、北海道大学とシンガポール国立大学が持つ世界レベルの食料生産分野の研究教育力を活かした、世界に類を見ないオリジナリティの高いコースです。グローバルな視点から水産物生産と供給体制を学び、アジア地域の水産利用に関する課題発見とその解決能力を涵養することで、タスクフォースとなり得る人材養成を目指すものです。本プログラムは6週間のコースで、函館—シンガポールへ学生が相互訪問することで、両国に学生が滞在しそれぞれの文化を学び、水産物バリューチェーンの川上から川下までを現地視察等を含めて実地で学び体感します。E-learningを活用することで相互訪問する前に必要な予備知識を習得します。シンガポールでは政府直轄食糧機関(SFA・MAC)、水産物卸売市場などの見学やすり身ボール製造実習を体験し、函館では水産物卸売市場、函館朝市などの見学や水産缶詰製造を体験します。



すり身ボール製造実習体験



シンガポール水産物卸売市場の見学

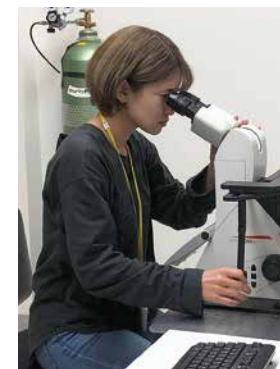
留学体験談

STUDY ABROAD EXPERIENCE

メリーランド大学・海洋環境技術研究所 博士課程3年

田中 桜花

トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム第4期に採択され、修士2年次を休学し1年間米国東海岸ボルチモアに研究留学をしていました。就活を始めるときに業績が無く履歴書を埋めたいと思い留学しました。留学先では 医学研究モデル生物の魚の一種ゼブラフィッシュを用い、脳内神経細胞が生殖機構に及ぼす影響を研究しました。自分の研究に客観的な意見をたくさんもらえる環境が良かったです。「その経験が、未来の自信」これはトビタテのスローガンです。ルームメイトとの大喧嘩など、心が折れることも多かったのですが自信がつかは人それぞれですが、留学は自分の将来の選択肢を広げることができます。私は現在、別の奨学金に採択され米国の同研究室の博士課程に在籍しています。海外大学院に行くなんて高校生の頃は考えられませんでした。その選択肢を知らなかったからです。これを読んでいる貴方はきっと留学が気になっているでしょう。勇気を出して留学について調べてみましょう。情報収集が大事です。日本にプラスして海外の研究室も比較対象に入れて検討すれば、幅が広がります。学部生は海外行ってみたい〜くらいの気持ちで研究留学へ挑戦して良いと思います。自分の将来の選択肢が増えます。



短期留学スペシャルプログラム Humans and Marine Environment (米国ワシントン大学)

2015年に開始された本プログラムでは、シアトルのメインキャンパスを訪問後、離島にあるフライデーハーバー臨海実験所で講義、実習を行います。海洋環境・生物とその人間生活との関わりに関する講義や、潮間帯の生物採取・同定、実習船を用いた洋上実習、ホエールウォッチングやホエールミュージアム訪問など、内容は多岐にわたります。ワシントン大学は1861年に設立され、米国西海岸で最も古くからある名門大学の一つです。ワシントン大学とは、水産学部が1988年に部局間交流協定を締結、2016年には大学間交流協定も締結し、水産学部生だけでなく、多くの北大生が短期・長期で学んでいます。

海外からの留学生

INTERNATIONAL STUDENT



Fridah Gacheri

Background

My name is Fridah Gacheri, a Kenyan lady studying as a research student at the Faculty of Fisheries, at Hokkaido University. In a few months, I will begin my Ph.D. program at the Faculty of Fisheries, Hakodate Campus.

Purpose of coming to Faculty of Fisheries, Hokkaido University

As they say, seeing is believing! During my master's studies at Can Tho University, Vietnam, I had heard a lot of good stories regarding development in Japan and the aquaculture and fisheries sector. I had come across Japanese researchers and sensei working with my Vietnamese lecturers whose presentations inspired me to join the Faculty of Fisheries at Hokkaido University, as a way of following my dream in the career field. Considering that Hokkaido University is well-known for the great milestones in the Fisheries sector, I had no other option other than to join the best institution in my career field. Therefore, when I got an opportunity to apply for MEXT Scholarship and come to Hokkaido University as a research student, I didn't think twice. This is because I knew my skills and knowledge in the Fisheries field will be sharpened and taken to the next level thus making me a contributor to the sustainable development goals.

留学体験談

STUDY ABROAD EXPERIENCE

海洋生物科学科4年

二通 健太

現在、北大の大学間協定を利用してノルウェーのベルゲン大学に1年間留学しています。ノルウェーに来て衝撃を受けたのは、スーパーに並ぶ魚が全く見たことのない魚だらけであったことです。ノルウェーは大西洋に面しています。そのため、太平洋では絶対に見られない魚が当たり前に見られます。シロイトダラ、クロジマナガダラ、ヨーロピアンヘイクなどが良い例です。学部卒業程度の知識を既に身に付けていたはずの私でしたが、ノルウェーに来て早々見たことのない魚を目にして、いかに自分が限られた世界しか見てこなかったのかを痛感しました。日本は太平洋に浮かぶ小さな島国です。日本にいるということは、太平洋という物理的な制限を伴います。私は太平洋を出て初めて、自分がどんな場所にいたのかを知ることが出来ました。この留学が無ければ、私は一生気付くことはなかったでしょう。大西洋はどんな場所だろう?その好奇心が私をノルウェーへと導き、世界が思っていたより大きく広いことを教えてくれました。



留学体験談

STUDY ABROAD EXPERIENCE

海洋生物資源科学専攻 資源生物学講座 修士課程2年

桑原 風沙

フライデーハーバー周辺は風光明媚で、巨大なヒトデやケルブ、多種多様な魚類、ゼニガタザラシやトド、シャチなどの海棲哺乳類を身近に見ることができ、私は日本に帰国したくなくなるほど、この地の魅力に取り憑かれました。講義や実習では、ワシントン大学に所属する研究者の方々が、学部生である私たちのレベルに合わせて分かりやすく解説して下さるため、紹介される専門分野それぞれに興味を持ってプログラムに取り組むことができました。また、講義外にも研究者の方々にキャリア形成や研究活動についてのお話を聞く機会があり、このプログラムは私が専門分野や進路を選択する上で、大きな指針となりました。海外のフィールドで、学部問わず集まった仲間と海洋生物について学び将来について考えるという、水産学部生にとって貴重な経験をすることができました。



ワシントン大学シアトルキャンパスにて(2019年8月)